

東日本大震災から10年
3・11を忘れない

最大震度7を観測した東日本大震災は、地震の揺れと国内観測史上最大の40mを超える津波の影響で、東北地方に甚大な被害をもたらしました。コープぎふは被災地に寄り添い、全国の生協と協力して様々な支援活動を行ってきました。あの日、あの時から10年の節目を迎え、これまでの活動を振り返ります。



コープぎふはSDGsの実現に向けて取り組みます。

死者・行方不明者約2.5万人、被害総額25兆円と大きな被害をもたらし、被災地では今も約4万人が避難生活を送っています。

岩手・宮城では住居や道路等のインフラの復興は進みましたが、福島では原発事故の影響で避難生活は長期化し、故郷の街の復旧は始まったばかり…「帰りたくても帰れない」「帰りたくない」という状況が続いています。復興には長い道のりが必要です。

「東日本大震災を忘れない」

コープぎふはこれからも被災地とのつながりを大切にしていきます。

被災地への支援活動

2011.3.11 発災

被災地への支援活動開始(3.17)

2台のトラックに支援物資を積み、みやぎ生協・コープあいづへ4名の職員が出発。避難所に食料、灯油等を届けました。その後4月4日までに8回、様々な物資を被災地に届けました。現地では組合員さんのお見舞い訪問や安否確認、宅配の再開支援や店舗の営業支援等を行いました。



3.21~4.9

組合員からの支援物資の呼びかけ

組合員からの「生協を通じて支援物資を送りたい」という声を受け、歯ブラシ・タオル・使い捨てカイロ等を集め、被災地に届けました。



- 避難所から仮設住宅への引っ越し支援や家屋の片付け作業
- 避難所で生活している被災者に灯油缶収納BOXを寄贈し、断熱シートを貼る活動
- 可児店で「フリーマーケット」を行い、売り上げをすべて義援金として寄付
- 被災地より岐阜県に移り住んだ方のくらしを応援 (お店でのお買い物割引・宅配の利用料無料など)

4月~

コープ共済のお見舞い訪問活動の支援



被災地の組合員さんを訪ね、対象者に異常災害見舞金の請求受付等を行いました。

異常災害見舞金
74,072件 総額20億885万円

共済金(震災によるケガ・死亡など)
2,948件 約16億5,103万円

※2011年3月11日~2020年3月10日振込分

2013

「福島 土壌スクリーニングプロジェクト」

福島県生協連とJAが「安心して住める『福島』を取り戻すための活動」として行った、福島の農地の放射性物質分布マップ制作に協力。他生協の職員と一緒に、田んぼや果樹園の放射線量を測定しました。



被災地への応援・交流活動

ふくしまキッズ応援

2泊3日で福島の親子35名を岐阜に招待し、東海地方のテーマパークや観光施設を案内しました。



福島の子もたち 保養企画inぎふ

陸前高田花火大会の応援

2014年から2018年にかけて、役職員が陸前高田花火大会で岐阜の名産である五平餅を販売し、盛り上げました。また、被災地を視察し、震災について学習をしました。



2016年の様子



岩手県陸前高田市の被災地の視察

震災から5年が経過して訪れた東北。ただただ広がる海辺の土地、かさ上げされた土地で奮闘している地元の方々、生々しく残る曲がりくねった金属、そして雪の降る夜を過ごした屋上の階段。5年の歳月は長かったのか、あつという間だったのか…。令和2年7月豪雨の際に、東北の方々から強く温かいメッセージをいただきました。相手を思いやる優しさに感動しました。災害・困難は絶えませんが、大切なことは思いを寄せる心、行動だと改めて感じます。



2016年度参加職員 益田支所 升宏美

「夜の森のさくら」植樹の取り組み

福島県双葉郡富岡町にある桜の名所「夜の森桜並木」の桜を全国に植樹し、福島第一原発事故を風化させないことを願うプロジェクトに参加し、各務原市民公園に桜を植樹しました。



2018年3月9日植樹式



商品利用で被災地を応援

商品案内では被災地のメーカーの商品に「がんぱろう日本」マークを掲載。また、売上金の一部が被災地に寄付される商品「チョコボ」を取り扱いました。

産地訪問

福島の桃や米を組合員に安心して利用いただけるよう、役職員が現地を訪問しました。安全性の確認や生産者との交流を行い、組合員に発信し利用を呼びかけました。



サロン・喫茶への交流、参加

宮城県の仮設住宅のコミュニティづくりを目的として開催されている「ふれあい喫茶」に岐阜県のお菓子を送りました(～2019年)。また組合員理事が被災地の「ふれあい喫茶(サロン)」に参加し、現地の方と交流しました。



福島県浪江町の仮設住宅と葛尾村の復興住宅で開催された「ふれあいサロン」を訪問しました。ハンディモップや五平餅を作りながら、大切な人を亡くしたことや家族と一緒に住めない寂しさなどをお聞きし、目頭が熱くなりました。そんな中、五平餅作りでは「今まで一番楽しかった!」と言われ、来て良かったと感じ、引き続きこれからもできる支援をしていけたらと思います。



組合員理事 蟹澤 保子

スタディツアー

コープぎふ20周年の取り組みの一環として、19名の組合員が被災地を訪れ、震災当時の状況や復興の様子を学びました。



◀ 宮城県名取市の慰霊碑

あの時を振り返り、いま私が思うこと

生協のベビーマッサージで、実際に被災された方から聞いたお話を未だに覚えています。とてもいい経験をさせていただきました。独身の頃は何かと他人事でしたが、子どもが二人生まれこれから新居に引っ越しするので、防災を見直したいです。(飛騨市 ゆっちゃんまさん)

もう10年経つんだという実感のなさ、10年も経つのにまだ完全なる復興には程遠いということが、災害の大きさを物語っているかと再認識しました。自分で精いっぱいですが、生協の商品を買って協力することで、カケラでもお手伝いになればと思う気持ちは変わっていません。(美濃加茂市 大人な子供さん)

東日本大震災「くらし・地域復興応援募金」に取り組んでいます。

これまで組合員から寄せられた募金金額 「91,073,450円」

OCR注文用紙の4桁・6桁注文番号記入欄に注文番号と数量をご記入ください。e-ブレンズ、電話注文でも募金いただけます。

注文番号	品名	金額
3992	くらし・地域復興応援募金	1,000円
3991	くらし・地域復興応援募金	100円